

創立 50 周年記念式典会長 あいさつ

本日は、ご多用中にもかかわらず、水戸市長はじめご来賓の方々にご臨席を賜り、誠にありがとうございます。本大会がこのように盛大に開催できますのも、ご来賓の皆様方の特別なご支援、ご協力をいただいた賜物でありますことをご報告し、会員とともに深く感謝申し上げます。

私たちの高齢者クラブ連合会は、水戸市の地域の発展と高齢者福祉の推進に寄与することを目的に、昭和38年に創立されました。以来、この12月20日をもって満50年を迎えます。この記念すべき年に、地域のクラブ活動に貢献され、本日晴れて受賞される役員、会員の皆様、誠におめでとうございます。さらに、活動のすばらしさを評価され、特別表彰されましたクラブの皆様、誠におめでとうございます。

さて、私たち高齢者をとりまく環境は、高齢者が4人に1人、10年後には、3人に1人と今後ますます高齢者が増加していく現状にあります。この中において、高齢者クラブは年々会員減少、会員の高齢化という課題にも直面しております。また、戦後も68年が経ちますと戦争体験を語り継ぐ会員も年々少なくなり、戦争の記憶も風化しつつあります。そのような中で、全会員の力を結集して構想3年をかけ、創立50周年記念誌の作成という一大事業に取り組み、完成いたしました。

この記念誌の大きな特徴は、高齢者クラブや水戸市連合会の50年のあゆみのみでなく、水戸空襲を

含めた戦争体験の薄れ行く記憶を記録化し、また平成11年に起きた未曾有の体験であった東日本大震災の恐ろしさと得た教訓を残し、次世代を担う子どもたちに平和の大切さ、尊さと大地震や津波による天災、人災の体験を伝えていくことを目的に作成したことです。なによりも、会員自身が綴り、編集した会員手作りの記念誌でもあります。

こうした活動の礎を築いてくださった諸先輩方と50年という歴史に思いを馳せ、今後私達が未来にむけてどのような活動をしていくべきか、本日を新たな出発の日と踏まえ、さらなる高齢者クラブの発展のため、会員の皆様とともに歩んでまいりたいと考えております。

今日、高齢者が置かれている現状は50年前とは大きく異なり、地域コミュニティの希薄化が進む中で、高齢者世帯の半数以上がひとり暮らしか老老世帯となっており、いわゆる「孤立」化しやすい状況となっております。今こそ、国民一人ひとりが行政だけに頼るのではなく、地域住民として最も重要な課題は何か、地域はどうあるべきかを考え、家族・隣近所・地域の人間同士が心を寄せ合い地域に力をつけ、安心し、安全に暮らせるようにしていかなければなりません。

そのために、市高連としては、

①全国老人クラブ連合会とともに会員100万人増強運動を展開するとともに、

②地域においては住民の会を中心に地域を支える諸団体と一丸となって、地域に力をつける運動を展開してまいります。

高齢者クラブはその大事な担い手のひとつとなることを新たな出発の目標としたい、と考えております。

